

助け合い、賢治の心

仙台オペラ協会による東日本大震災復興応援公演「双子の星」は3月21日午後2時から、盛岡市民文化ホール大ホールで開かれる。宮沢賢治原作の童話をアニメ「ドラゴンボール」の脚本家小山高生さんが脚色、狂言師や俳優も出演する異色の創作オペラ。作曲、指揮者の高橋裕さん(東京都杉並区)に作品や公演への思いを聞いた。

高橋さんは、東京芸術大の学生時代から宝生流能楽師寺井良雄さん(故人)に師事。作曲や指揮の傍ら、謡や仕舞の稽古を続け、和楽器を取り入れた作品を多く作っている。

本企画への参加は、高橋さん作曲「オーケストラと能のための『奏上』」を演奏した京都市の京都アルティ合奏団から「今日本が失いつつある大切なものを伝えるオペラをつくらう」と声を掛けられたのがきっかけ。

「早速、日本の昔話や民話、神話を片っ端から読んでいったが心に留まるものがなく、全く面白くない」と悩んでいた高橋さん。自分たちを志した劇として海を渡される雙星の「双子の星」を読み返した時、「この心優しい童話を今の場面は、自分も指

作曲・指揮の高橋裕さんに聞く

来月公演
盛岡オペラ

揮をしながら綱が締め付けられる感じがした」と振り返る。小山さんには、振り返る。

本作は、アニメ「タイムボカンシリーズ」などの脚本でもおなじみの小山さん、狂言師の能村晶人さん、俳優の松崎太

復興に向かう活力に

郎さんらの起用が注目される。

「オーケストラの響きの中で、狂言師の謡や所作は和洋の絶妙な取り合わせとなり、俳優の演

技からみ物語のクライマックスでも重要な役割を担う。小山さんには、原作にはない泣き交いの要素を加えてもらった」と

今年には賢治生誕120年。賢治の再発見や、復興や明日に向かう活力の足しになればうれしい」と熱を込める。

チケットはS席4千円(学生2500円)、A席3千円(同1500円)。マリオスインフォ

メーション(019・621・5155)、ローソンなどで購入できる。

問い合わせは同実行委の杉浦さん(090・5542・0424)へ。



「リアリティのある感情表現を目標にしている。ぜひ原作にも触れてほしい」と語る高橋裕さん(盛岡市内)

たかはし・ゆたか 東京芸術大大学院修士課程作曲専攻修了。日本文楽振興財団作曲賞、第1回芥川作曲賞など受賞多数。指揮者としても活躍する。現大阪芸術大客員教授、東京芸術大音楽学部附属音楽高教諭。京都市生まれ、62歳。